

ぐるめ散歩

中国料理

フータオ 中国菜 胡桃

本格的な四川料理を中心に、繊細で奥深い様々な中国料理を提供している。

一品料理や点心、前菜、麺類、デザートなど40種以上ある定番メニューのほか、旬の素材を使った季節のおすすめ料理も充実している。

四川名物の10種以上の香辛料を使ったよだれ鶏をはじめ、3時間以上蒸した豚肉を使った黒酢のスパタ、土鍋で煮込んだ四川麻婆豆腐、素材の持ち味を生かすため独自の工夫を施したり、手間をかけた料



理が多いのが特色。店名の元になったクルミの餡がらめも人気。

店主の平澤裕太さん(47)は狛江第二小学校、狛江第一中学校を卒業後、料理の専門学校に通い、都内の様々な中国料理店で腕を磨いた後、平成29年に独立して現在の店を開いた。

多くの香辛料を本場中国から取り寄せ、台湾産の野菜も使っている。素材の持ち味を引き出すため、入念に下ごしらえするほ



☎050-5487-3191 岩戸北4-17-19 営業=午前11時30分~午後3時(LO2時)/5時~11時(LO10時)(緊急事態宣言中は8時) 水曜休み(宣言中は木曜も)

松場通り ●胡桃
の橋通り
慶岸寺 ●銀行
レストラン ●世田谷通り



純狛江産の枝豆ビール 9月に発売、出足好調

狛江市内の農家と酒店が共同で開発に取り組んだ純狛江産の枝豆ビール(発泡酒)が9月から発売され、注目を集めている。

「新たな狛江の希望」(写真右)と名付けられたこのビールは500mlの瓶入りで価格1,056円(税込)。

狛江には市内産の枝豆を使った発泡酒「こまえ〜」が平成24年から発売され、市観光協会の推奨品になっている。ただ、醸造は新潟の酒造メーカーに委託していた。「こまえ〜」の開発

に取り組んだ「狛江野菜を広める会」の駒井町で農業を営む松坂諭さん、高橋一真さん、高橋庸之さんと、籠屋秋元商店専務の秋元慈

一さんは、畑から醸造までのすべてを狛江で完結する純狛江産のビールを実現しようと研究を続けた結果、発売に至った。枝豆の香りが強い「こまえ〜」に対し、新しいビールは、枝豆の香りをやや控えめにし後口がさわやかですっきりとした味わいが特色。

商品名は会のメンバーで相談、現在の新型コロナウイルス感染症による閉そく感を晴らし、農家をはじめとした多くの人の希望になればという思いを込めたとい



う。今回は枝豆20kgの実と皮を使い、籠屋秋元商店のブルフリーで351本を製造した。同店が参加した狛江フェスティバル初日の9月11日田から販売しており、売り切れ次第終了する。

秋元さんは「フェスティバルの2日間で約100本売れ、出足は好調です。ビール好きな人からも好評なので、来年以降も製造を続けたい」と話している。

問い合わせは☎3480-8931籠屋秋元商店。

絵手紙道具セットを販売 狛江市文化振興事業団

絵手紙のための基本的な道具をまとめたセットを一般財団法人狛江市文化振興事業団が販売している。

セットの内容は墨、すず

り、筆2種、20色の顔彩、画仙紙葉書、教則本などで価格は8,580円(税込)。これまでは絵手紙(株)の通信販売だけだったため、市内で販売してほしいという市民の要望にこたえて、「絵手紙発祥の地-狛江」の事業を担当している同事業団が取り扱うことになった。

希望者は同事業団(東和泉1-3-17駄倉地区センター2階)へ直接。

問い合わせは☎3430-4106一般財団法人狛江市文化振興事業団(午前9時~午後5時、土・日曜・祝日除く)。



四川中心に多彩なメニュー 手間と工夫を凝らした本格派

か、点心類やデザートも手作りする。コロナ禍に対応するため、持ち帰りができるほか、予算に合わせて選べるようコース料理やランチの充実も図っている。座席数はカウンターとテーブル合わせて20席で、家族連れやグループの客も多い。

平澤さんは「出身地である狛江の人たちにおいしい料理を提供して、喜んでほしい。多彩で奥深い中国料理を気軽に味わってください」と話している。

おすすめMENU

- ①よだれ鶏¥70 / ②黒酢のスパタ¥1,050 / ③四川麻婆豆腐¥50 / ④クルミの餡がらめ¥500 / シンプル葱麵(塩味醤油味)各¥700 / タンタン麵¥1,000 / チャーシュー炒飯¥1,000 / 紋甲イカのXO醬炒め¥1,000 / 牛肉ピーマン細切り炒め¥1,070 / 豚スペアリブのウチソース蒸し¥860 / 焼き餃子(4個)¥550 / カスタード揚げ胡麻風味¥440 (税込)



西河原公園で観察会 生きもの探検隊を実施

西河原公園内に設けられたピオトープで観察会が9月12日に行われた。9月1日から始まった「こまえ生きもの探検隊」のキックオフイベントとして実施されたもので、子どもやおとななど20人余りが参加した。

3月に昆虫などの生き物が住みやすい自然の草むらを再現すると共に、枯れ枝や竹などを詰めた木箱の「インセクトホテル」を置いた。

この日は(株)セルコの専門家の指導を受けながら「ホテル」にいた昆虫などを観察。アリやカメムシ、クモなど約30種の生き物を確認した。また、園内を回って木々を観察すると共に、木の名前を記した樹名板を取り付けた。

生きもの探検隊は、多くの市民に身近な自然への関心を持ってもらい、狛江の自然環境を継続的に把握するため実施するもの。身近で見つけた生き物の名前や日付、場所などを市内の公共施設に置いてある「参加のてびき」(市ホームページでダウンロード可能)の報告シートに記入し、回収ポストに投函するほか、パソコ

ンやスマホの電子申請でも受け付けている。締め切りは1月15日田。



古民家で演奏する狛江高校箏曲部

まち

ンやスマホの電子申請でも受け付けている。締め切りは1月15日田。

秋の夜空に流れる箏曲 古民家でお月見音楽会

都立狛江高等学校箏曲部が出演するお月見音楽会が9月20日(月)にむいから民家園で催され、訪れた市民たちは秋風に乗って流れる箏の音色に耳を傾けていた。

この日は1年生と2年生の部員14人が「ルパン三世のテーマ」「千本桜」「紺碧く」などバラエティーに富んだ5曲を演奏。童謡メドレーの「はじめの一步」でなじみ深い童謡が流れると一緒に口ずさむ子もいた。

演奏は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため2回に分けて行われ、家族連れなどのべ230人余りが訪れた。2部の後半には十五夜1日前の満月に近い月が昇り、聴衆を喜ばせた。

同部は、創部以来全国高等学校総合文化祭に何度も出場し、文化庁長官賞を受賞するなど優秀な成績を収めている。ただ、昨年から新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、演奏の機会

が減り、1年生が聴衆の前で演奏するのはこの日が初めて。生徒たちは「古民家というすてきな舞台上、たくさんの方の前で演奏できてうれしかった」と話していた。

福祉施設の製品販売 上手いもの市を開催

市内の福祉施設が集まって自主製品を販売する「上手いもの市」(狛江市・上手いもの市実行委員会主催、小田急電鉄(株)協力)が19日(火)と20日(水)午前11時~午後2時に狛江駅改札前

催事スペースで開かれる。障がい者が通う福祉作業所や就労支援施設などが作っている様々な商品を知ってもらい、市民と触れ合うことで障がい者への理解を深めようと令和元年から狛江市と狛江市社会福祉協議会が開いているもので、今

回で4回目。 出店団体と販売予定品(かっこ内)は19日がこまえ工房(クッキー、雑貨)、カレーショップ・メイ(菓子パン)、ポンテ(入浴剤、雑貨)、パザパ(雑貨)、20日がひかり作業所(ジャム、海苔の佃煮他)、ワークひなた(クッキー)、ワークイン・メイ(パウンドケーキ)、麦の穂(押し花・手織り製品)。主催者側では当日はエコバックの持参を呼びかけている。



昨年のお上手いもの市

こまわ 狛江くらぶサッカー教室 スポット

狛江くらぶフットボールExperienceが、初心者向けサッカー教室の受講生を募集している。 狛江くらぶは正式名称を「狛江市総合型スポーツ・文化クラブ」といい、狛江市スポーツ振興計画に沿って平成23年に設立された。誰もが生涯にわたりスポーツ・文化活動を気軽に楽しめる「場」づくりを目的に、ノルディックウォーキング、パレーボール、テニス、バドミントンなどの教室がある。



練習する子どもたち

サッカー教室は、市内在住で日本サッカー協会公認B級指導員の資格を持つ大和明志さんの働きかけで31年に発足した。大和さんは、ひとつひとつのプレーの意味や目的を的確に伝え、子どもたちが自分で考えながら動くことを基本的に指導し、サッカーを通してスポーツの楽しさを知ることが大切にしており、他のスポーツや習い事との併用も勧めている。教室は前期と後期に分かれ、今回募集するのは10月から来年3月までの後期。期間中に月1、2回(全10回の予定)金曜日午後4時30分~6時30分に西和泉体育館で開催。入会金は1,000円、会費は4,500円。対象は小学1~4年生。定員は先着12人。期間終了後の継続も可能。 申し込み・問い合わせはEメール futbol@komawa.jp。